

令和元年度第2回広島市廃棄物処理事業審議会 議事要旨

1 日時

令和元年11月11日（月） 午後2時～午後3時27分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

今岡 務（会長）、川本 季子（副会長）、伊藤 圭子、伊藤 敏安、亀本 隆資、滝島 繁樹、
鉄村 忠基、天玉 朝子、林 千秋（以上9名）

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

報告1 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の平成30年度における目標達成状況等
について

報告2 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等
（平成27年度～平成30年度）について

(3) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

1名（報道関係者1名を含む。）

7 会議資料

〈会議関係〉

- 広島市廃棄物処理事業審議会 委員名簿
- 令和元年度第2回広島市廃棄物処理事業審議会 配席表

〈議事関係〉

- 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の平成30年度における目標達成状況等について
- 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等
（平成27年度～平成30年度）について

8 議事要旨

発言者	発言要旨
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は報告が2件である。事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	<p>【広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の平成30年度における目標達成状況等について、広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の行動計画に基づく施策の実施状況等（平成27年度～平成30年度）について説明】</p>
	<p>【ごみ減量啓発DVD「ごみの減量とリサイクル」視聴】</p>
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ただ今の説明とDVDについて、御意見、御質問等があれば承りたい。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 報告1の3ページのペットボトルが28.2%増えているということについてだが、これは原因があって増えているのか。特に増えた量が多いので、外国の旅行客が増えているとか、何かイベントがあったとか、要因が分かれば教えてほしい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> そのようなこともあると思うが、最近では猛暑であるということもあり、ペットボトルの飲料を飲む機会が増えていることも一つの要因として考えられるのではと思う。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 最近、プラの問題があるので、もう少し市民に啓発をしてもらいたい。私も水筒を持って歩くようにし、私の団体でも声かけはしていくが、ペットボトルが余りにも増えているのが気になった。海洋プラスチックなどの問題もあるし、もう少し啓発などの努力をして、なるべくペットボトルを持ち歩かない方向に持っていき、減らすことができたらいいと思うので、よろしく願いたい。
亀本委員	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル問題であるが、事務局が言ったとおり、ライフスタイルが変わってきたということが一番大きいと思う。それと、企業努力によって、ペットボトルのジュース、水、お茶が大変安く買えるようになった。以前は120円、150円を買っていたものが、今は安いものだと1本29円とか39円といった値段で買えるようになった。消費者は箱買いでどんどん買うようになった。そして、気候の問題もあって水を持ち歩くようになった。昔だと水を買うなど考えられなかったが、今はライフスタイルが変わり、そんな感覚になってきた。また、缶はその場で飲み干さなくてはいけませんが、ペットボトルだと残せる。ライフスタイルが変わった、買い易くなった、そういったところで、ペットボトルがかなり増えてきたのだと思う。
川本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 私は箱買いはせず、お茶は自分で沸かしているんで、そういった視点が無かった。教えていただいたので、今後スーパーで見たいと思う。 先ほどのDVDについてだが、私は長く広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会委員長をしており、今年の3月にDVDをいただき、団体でも使っている。 今年の5月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が決まって、10月1日に施行された。先日、ごみ減量・リサイクル実行委員会でエールエールA館の地下において、11時から3時までイベントを行い、食品ロスのクイズやすごろくなどを行った。今、色々な啓発も進んでいて、最初の頃から比べると旅館や飲食店など取り組んでいただけたところが増えている。ホテルでは宴会がある時は3010運動を必ずしてくださり、食べ残しをしないことが広がってきていると思う。

発言者	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律になったので、フードバンク、フードドライブなど、色々な面でもっと食品ロスを減らすことができれば、ごみの減量にも繋がると思う。広島市地域女性団体連絡協議会や環境サポーターの方などメンバーに入っていていただき、今後も更に啓発を行い、広めていきたいと思っているので、皆様にもご協力をお願いしたい。今日はDVDを見せてもらったが、既に活用して、地域で紹介したりなど、実際に動いているので、お礼を兼ねて申し上げておく。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局から今の意見について何か付け加えたいことがあるか。
業務第一課指導担当課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品ロスに関しては、国が今年度末を目標に基本方針を出す予定になっているので、それを基に本市でも計画を立てていきたいと考えている。 ・ PRについてもしっかりやっていきたいと思っている。DVDは小学校、中学校に配布しており、視聴していると聞いている。
伊藤敏安委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想であるが、ごみが増えた理由として景気回復があげられていたが、悩ましいところで、両立させるのが難しい面があると思う。 ・ 質問といくつか気付きだが、まず一点目として、報告2ではごみ量の変化のところに「災害ごみを除く」との注意書きがあるが、報告1では記載が無いので、是非入れていただきたい。 ・ 二点目は、人口当たりの問題についてである。将来見通しについては、恐らく市の推計人口、目標人口が分母になっているのだと思う。目標人口が少し多めの場合、量が一定だと、一人当たりの量が少なくなるのだろうが、現在は人口が横ばいで、ごみが少し増えると、一人当たりがどうしても多くなる。分子だけではなく、分母も変わるのだということを補足説明しておいたほうがいいのではないかと思った。 ・ 三点目は、報告1の5ページ、埋立量についてだが、令和2年度以降、随分減っていくが、これは何か理由があるのか。この辺りも注意書きが欲しいと思った。 ・ 報告2の後半部分で出てきたが、可燃ごみとその他プラを一緒に燃やすことを検討するという点についてだが、南工場分だけ全市一律の対応ができないからしばらくは見合わせるとのことだが、結局は、その他プラの問題は、南工場ができるまで保留すると解釈してよいのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の将来推計の件については、減量目標を設定する上で、将来推計人口を加味したもので推計をしているので、これについての補足説明を記載したいと思う。 ・ 埋立量が令和2年度から減少していることについては、事業系の不燃ごみのうちプラスチックごみが焼却処理に変わるので、これについての埋立量が減っているということである。 ・ 災害ごみについてであるが、目標数値の比較という点については、災害ごみが例外的なものであるため、これを除いた量で目標値と比較している。資料にはその旨を記載させていただくようにする。 ・ 現南工場では、その他プラの焼却に関し、安定的な処理が難しいということがあり、可燃ごみとその他プラを一緒に焼却処理することについては、南工場の建替えを踏まえて考えていきたいと思っている。
伊藤圭子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告1の2ページの左上の表を見ると事業ごみが増えている。家庭ごみに比べてその増え方が大きいと思う。3ページの右下のグラフにおいては

発言者	発言要旨
	<p>不燃ごみが増えている。6 ページを見ると、事業ごみの組成分析のグラフでは、資源化できない紙類に関して、年によってかなり差がある。29年度は17.1%だったが、30年度は30%近くある。事業ごみは何故増加しているのか。それに対しての対策は考えているか。また、資源化できない紙類の変動はどうして起こっているのか。そして、資源化できない紙類を減量するための計画について教えていただきたい。</p>
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業系不燃ごみの増加についてだが、分析がなかなか難しく、想定としては、家庭ごみも事業ごみも景気が良くなると増えてくるのではないかと考えている。 ・ 組成分析調査結果について、年度によって変動が大きいのではないかということについてだが、組成分析調査では、焼却工場に入ってくる車を選んで調査を行うのだが、入ってくる車でごみ収集を行った事業者の業種が偏った可能性があり、これにより年度によって変動が出てくるので、並べて見ていただけたらと考えている。
伊藤圭子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者を決めて調査するのではなく、その年によってランダムに抽出しながら見ているということか。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者を特定すると偏ってくるため、毎年大きく乖離することのないように、その時その時によって、色々な業種になるように抽出している。
伊藤圭子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な業種を調べてその平均の数値なのかと思っていたが、そのような調査方法だということを理解した。
亀本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーマーケットの狭い範囲で、私が見たイメージで言うので確証があるわけではないが、企業はごみを排出するための袋を購入したり、高い料金を払って回収してもらったりと、ごみを捨てるためにかなりのお金がかかる。そのため、当然ごみは少なくしたいのだが、現場を見ている中で、例えば、昔はダンボールで入ってきていたが、プラスチックに変わったというものが大変多い。イメージし易いものだと、例えばオクラなどはダンボールで入ってきていたが、今は殆どプラスチック容器である。何故かと言うと、荷崩れしにくい、積み上げやすい、商品が壊れない、そういうことを考慮すると、プラスチック系の容器が増えるのかなという気がする。それと、最近だと、輸入物のブロックリーがすごく増えてきた。ブロックリーの容器は発泡スチロールに入って、ロウを塗ったダンボール、それに氷詰めをするというように、過度な梱包をしている。それらは全部ごみになる。ダンボールはロウを塗っているからリサイクルできないため可燃ごみに回すことになる。また、輸入物で言うと、花が大変増えてきた。アフリカやエジプトなどから入ってくるが、花を維持するために物凄い梱包で入ってくる。そういったところで、事業ごみが少しずつ増えてきたのではないかと思う。先ほどのDVDにトマトの画像があったが、トマトやりんごなどは全て一つ一つが入る形の緩衝材になっており、その上に、発泡スチロールで枠を付けたりと品質維持のためにそういう物がどんどん増えてきている。それらを減らしていこうと思えば、先程も事務局からあったように、景気が上がってきたから増えたとか、介護事業所が増えておむつが増えたということは当然あると思うが、目に見えず、感じないようなところでも物凄く増えてきている。最初に言ったように、狭い範囲で物を言っているのだから、事業者全体でどうかは分からないが、そういったところが増

発言者	発言要旨
	えているのは確実にあると思う。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。なかなか難しいと思うが、事務局のほうで事業者と情報交換していただいて、ごみの減量にあたって、市としてどういったことができるのかという情報収集もしていただいたらいいのではないかと思います。 ・ 先程のごみの組成分析は、事業系も試料は400kgか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭ごみ、事業ごみ、それぞれ400kgのサンプルを分析している。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業系の収集日にパッカー車で持って来た40ℓの10袋くらいか。それらを開いて調査するので、その収集地域によって多少袋の中身に差が出るのは仕方がないだろう。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭ごみは各家庭から出てくる可燃ごみのため、どの家庭も中身はそんなに大きくは変わらないので、概ね6ページの上のグラフのような傾向であり、生ごみについては少しずつ減っているという状況も実際にそうなのだろうと分析している。ただし、事業ごみについては、家庭ごみと調査方法は同じなのだが、入ってきたパッカー車の一部をピックアップして手作業でどんな物が入っているかを見ていくので、家庭系に比べて事業系の場合は、複数台の車から取るのではあるが、その車が回収した事業所が食品系かどうかということなどによって、中身の傾向が動くので、6ページの下グラフは、全体の傾向を見ていくということになってしまうが、調査方法はそのようなやり方である。
亀本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が買い物袋持参運動を始めた時、10年前くらいになるが、私も参加させてもらい、推進運動をやったのだが、あの頃は買い物袋が社会悪みたいな感じで言われて、削減しようということをやった。しかし、今年の5月の中国新聞にプラごみの焼却は悪くないのだということが書かれていて、エネルギーのリカバリーというのか、一緒に燃やしたほうが熱効率が良くて、CO2の排出を検討すると、削減したのと同じくらいではないかということが載っていた。私は専門ではないのでよく分からないのだが、片方ではそういう意見もあって、ごみを減量するのであれば買い物袋を削減したほうがよいのかもしれないが、環境的に本当にそれが良いのかどうかということを考えると、買い物袋の削減をこのまま進めているのかと疑問なところではある。その辺の御意見はどうか。
環境局次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の方でもプラスチックごみの戦略を立てている中で、サーマルリサイクルは順番としては後の方で、やはり発生抑制が一番、その後は再使用、次に再生利用という順番になり、サーマルリサイクルが一番最後の手段ということであるため、市としてもその方向でやっていきたいと考えている。
天玉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私がいつも行くスーパーで、食品売り場はレジ袋が有料化されているが、衣料品や雑貨類のところは、袋に入れてくれる。頻度としては、食品を買うよりそちらの方が少ないので、レジ袋の削減として、そこまでは求めないということなのか。それとも、それは店の判断に任せているということなのか。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーの中の薬局などは必ずレジ袋をくれる。それは、洗剤などの臭いが食品に移るといふこともあるのだと思うが、レジ袋を無くすということについては、主婦としては少しどうかと思う。砂糖などを買った場合、砂糖はすごく臭いを吸収するので、そういう物はレジ袋に入れてもらいた

発言者	発言要旨
	いと感じる。
業務部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ レジ袋の無料配布中止の取組を始めた時に、事業者、市、ごみ減量・リサイクル実行委員会等で協定を結んでいる。この時に全てのレジ袋を廃止して有料化ができれば良かったのかもしれないが、事業者の話を伺うと、やはり雑貨売場では、医療品や家電製品も売っているということでかさばり、レジ袋を渡すことは止む無しではないかという御意見があった。これについては事業者にお任せしている状況である。市としては、食品売場については、買い物かごなどで対応ができるだろうということをお願いをしている状況である。そのことがあって、いわゆる最近ではホームセンターなど色々なところでレジ袋を出している店があるが、大きい製品を扱う店では、なかなか難しいと思う。ただ、現在、市が取り組んでいるコンビニエンスストア、ドラッグストアは、最近、食品を扱っているところがあるので、コンビニエンス関係の業界へ働きかけをしているところである。来年度からはレジ袋の無料配布の中止の施行規則の改正を国が検討しているところなので、来年度、ある程度目に見えた形で出てくるのではないかと思う。
今岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業系ごみは増加の傾向にあり、市としては検討しているところだと思う。それを是非、事業者の方と情報交換していただきたい。1人1日当たりのごみ量がやはり若干増える傾向にある。確かに人口の増加もあるかもしれない。母数の問題もある。もう少し解析をしていただいて、幅広い取組を進めていくことが必要ではないかと思う。 ・ 以上で予定していた議事は終了とさせていただきます。